

スポーツイベントと 持続可能性

学生団体おりがみ スポーツチームリーダー/SUSPON Youth部会/千葉大学国際教養学部3年 岩澤 恵史

スポーツがSDGsに貢献できること 学生が地域で挑む“持続可能”なスポーツ機会創出

SDGsとスポーツ

2019年のラグビーワールドカップ(W杯)は多くの感動を呼びました。東京五輪・パラリンピック(五輪=2020年7月24日~8月9日、パラリンピック=8月25日~9月6日)を目前に控えた今、国内では目を追うごとにスポーツへの関心が高まっています。

こうした状況を映して、東京2020大会と関連したスポーツイベントが最近、企業や地方自治体、学生など多様な主体によって全国各地で開催されるようになってきました。

スポーツは無限の可能性を秘めており、その可能性は「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現にも活かすことが可能だと考えています。

SDGsは、2030年までに「誰も置き去りにすることなく、すべての人にとって尊厳ある生活を現実のものとする」ため、17の目標を掲げています。その目標は非常に広い領域を対象にしており、一部の国・組織だけの努力では決して実現することはできません。国家、企業や自治体、NGOなどの非国家アクター、市民らが連携し、世界中で1人でも多くの人に関わることによって実現に近づきます。

では、SDGsが掲げる課題の解決に向けて、スポーツはどのような貢献ができるのでしょうか。スポーツには、経済的な側面や健康促進の側面など様々な価値があります。その中で、スポーツが持つ「人と人をつなぐ力」がSDGsに関する取り組みで大きな役割を果たすと考えています。SDGsにも、目標17として「パートナーシップで目標を達成しよう」があります。

そうした具体的な事例を、SUSPON(持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク)のYouth部会に所属している私たち「学生団体おりがみ」の活動から紹介

したいと思います。

総合型地域スポーツクラブの 設立プロジェクト

「おりがみ」は、東京2020大会とその後のレガシー(遺産)創出に向けて、6つの分野を中心に活動しています。スポーツ、文化、環境、教育、国際、福祉の6分野です。

このうち、スポーツ分野では、「スポーツで誰もが居場所の見つかる社会の実現」をミッションとして、性別や出身地に関係なく子供から高齢者まで多様な方々が参加できるスポーツイベントづくりを進めています。

同分野では、2020年度末までに



写真1 地域の方々と交えたスポーツイベントの様子

千葉県で「総合型地域スポーツクラブ」という団体を任意団体もしくはNPOの形で設立し、五輪・パラリンピックを契機に継続的な活動の仕組みを作り上げることを目標にしています。スポーツを中心とした同クラブの活動を「人と人の交流ハブ」として活用し、地域の多様な人々を取り込んでネットワークを創出することを目指していきます。

こうした目標の実現に向けて、現在、千葉県内の対象地域で毎月1回スポーツイベントを実施しています(写真1)。地域の方々と一緒にスポーツイベントを行うことで、私たちが目指す“まちの将来像”を伝えていくことが狙いです。

イベントのテーマは毎回変えており、これまでに「球技でつながろう」をテーマにソフトバレーを実施したり、「秋の大運動会」をテーマに大縄跳びや二人三脚障害物リレーを実施したりするなど、様々な種目に挑戦してきました。こうしたイベントを実施する際は各回それぞれ対象者を設定し、どうすれば参加者が楽しく交流を深めることができるかを考えた上で、既存の競技の枠に捉われない自由な発想で取り組んできました。

イベントはこれまでに3回実施し、計20人以上の参加者を集めました(写真2)。まだまだ規模は小さいですが、参加者は、性別や身体のハンディキャップの有無を問わず、未就学の子供から大人まで、実に多岐にわたります。普段は触れ合うことがないような人たち同士がスポーツイベントを通じて知り合い、つながっていくのです。

今後は、地域の方々にも企画・運営に参画していただき、「スポーツ



写真2 第1回目の地域スポーツイベントの集合写真

を通じた居場所づくり」を推進していく予定です。

現代社会は、インターネットの普及によりオンライン上でのつながりが広がる一方、フェイス・トゥ・フェイスで直接触れ合うような関係性が薄れています。そのような世相の中で、スポーツが持つ大きな可能性の1つである「人と人をつなぐ力」は、今後ますます大きな意味を持つようになって考えています。スポーツを通じて地域の方々と結びつけ、自分が自分らしくいられる場所(居場所)を提供していければと思います。

東京2020大会はきっかけ

こうした活動は、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」のほか、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標10「人や国の不平等をなくそう」に貢献できます。

継続的なスポーツ活動は身体的な健康だけでなく、心の健康にもつながります。また、参加者同士がお互いを認め合い、讚え合う場をスポー

ツで実現することで、お互いの違いを越えたフラットな関係を築くことができます。

地域に根付いたスポーツクラブを実現するには、学生が自分たちの夢を地域に「押し付ける」のではうまくいきません。そこに住む方々との「パートナーシップ」が何よりも必要になります。地域の方々がイベント参加者の枠にとどまらず、私たちの活動や理念を「自分ごと化」することにより、真に意義のある活動になっていくと考えています。

東京2020大会は、開催して終わりというゴールではなく、あくまで第一歩を踏み出すためのスタート地点にならなければいけません。

“スポーツの祭典”がもたらす感動や勇気、国境や立場を越えた共感、将来への期待の高まりを2020年限りで終わらせるのではなく、これを“きっかけ”として、大会がもたらすレガシーをその後も継続していける場を作ることは、サステナブル(持続可能)な社会づくりにも好影響を与えると信じています。E